

ぱれっと

2008

9月

No.109

■ 目次 ■

すぽっとらいと

アラカルト
サポ本を読もう

サポセン日記
イベント紹介
お知らせ

ごみ拾いでホームレスの自立支援
NPO法人 ワンファミリー仙台

伝わる広報 ～イベント告知編～

『人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方』

助成金情報コーナー
9月のイベント紹介



「本日は…キュ～館日です…
マルっと…」

あっ！もしかしてサポセンに御用ですか？ごめんなさい、今日は月に一度の休館日です。サポセンは閉館していますが、実はスタッフ全員が出勤しています。館内を見廻って、時計の時刻合わせをしたり、蛍光灯の交換をしたりと、施設の整備・点検をするのがこの日の大切なお仕事です。

※休館日は、毎月最終水曜日です。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

ごみ拾いでホームレスの自立支援 NPO法人ワンファミリー仙台

格差社会、ワーキングプア、ネットカフェ難民という言葉をよく耳にするようになりました。さまざまな事情により、住まいを失ってしまう人の増加が大きな社会問題になっています。そのなかで仙台市でホームレス支援をしている団体の一つが、今回ご紹介する「ワンファミリー仙台」です。代表の立岡さんにお話を伺いました。



▲代表の立岡さん(右)

「仙台にホームレスはいないの？新宿のホームレスを救う前に、仙台のホームレスを救わないと・・・」東京で活動をしていた立岡さんに投げかけられた言葉です。東京都・新宿中央公園でホームレス支援をしている団体の活動に感銘を受け、積極的に参加していたときのことです。この言葉に衝撃を受け、立岡さんは自ら仙台で夜回り活動をはじめ、2002年にワンファミリー仙台を立ち上げることになりました。

●クリーンボランティア530

ワンファミリー仙台では、次の4つの事業、①清掃活動「クリーンボランティア530」②住居支援施設の運営③野菜宅配、すいか行商④就労紹介を通してさまざまな側面からホームレスの自立を支援しています。

「どんな状況なら一日生きていけると思う？」とホームレスの人にたずねたところ、「朝飯が食べたらな～」という答えがかえってきました。そこで始まったのが、団体の設立当初から行っている「クリーンボランティア530」です。毎週月曜日の早朝、仙台市中心部のごみ拾いを行い、その参加者に現金200円、おにぎり3個、みそ汁1杯を提供しています。清掃活動に参加しているのは仙台市内の公園や路上で暮らすホームレスです。



▲クリーンボランティア530の活動

初回集まったのは3人でしたが、口コミで広まり参加者はだんだん増えていきました。初めは月2回不定期に活動していましたが、ホームレスの情報収集は口コミに頼るところが大きいため、参加しなければ次回の日程が分かりません。参加しているホームレス側から決まった日にやってほしいという申し出があり、毎週月曜日に定期的に実施することになりました。平均15～20人が参加し、今年5月に通算300回を達成しました。

この活動にはホームレスに対する市民の見る目を変えるというねらいもあります。ごみ拾いをすることで、不真面目だ、怠け者だなどという市民のホームレスに対するイメージを変えさせたいと思ったのです。

●ホームレスへの思い

このようにホームレスの人たちと多くの時間がかかわる中で、ホームレスになってしまう人は、人とどう接したらよいか、自分の気持ちをどう表現したらよいか分からない不器用な人が多いことがわかってきました。「初めは自業自得だと思っていたが、活動を続けていくうちに、本人だけを責めるわけにはいかないと考えた。生きてきた境遇がそうさせたという面が多分にある。多くのホームレスと接していく中で、やっと現実が見えてきた。とんでもない問題だと思った。」と立岡さんは言います。

活動していて嬉しかったことは、目の前にいる人が自立できたり、前向きではなかった人が活動を通して前向きに考えて行動するようになったことだそうです。施設を卒業した元入居者が、仕事が決まりお菓子を買って挨拶に来てくれたとき、「親との関係が上手くいかず家を飛び出してホームレスになってしまったが、先日、母親がやっと認めてくれたと報告があった。涙が出るくらい感動した。」と語る立岡さんは、ほんとうに嬉しそうでした。

団体紹介

NPO法人ワンファミリー仙台

仙台市中心街での清掃活動や、無農薬野菜の栽培・販売、住居支援事業、就業紹介事業を通して、ホームレスの自立を支援しています。

<団体連絡・問合せ先>

〒980-0923

仙台市青葉区東勝山1丁目25-1-102

TEL 022-274-9533 (新沼)

E-mail onefamily-sendai@wave.plala.or.jp



▲ イベントに参加する
ワンファミリー仙台のみなさん

● “いいこと” だけする

「過去は問わない。ワンファミリーと出会った時点をゼロとして、これからは“いいこと”だけをして、死ぬまでにプラスになるような人生を歩め。」立岡さんは住居支援施設に入居する人に必ずこう話すそうです。“いいこと”の一つはごみ拾いを続けること。そしてプラスして、ごみ拾いの参加者のために朝食用のおにぎりを作ること。他にも、ワンファミリー仙台では無農薬・無化学肥料で野菜や米を作る活動を行っています。これは地球を汚さないことや、自らが育てた安全でおいしい野菜を提供すること、自らも安全な食について考え、それを広めるといふ社会貢献につながるのです。

●行政とのタイアップ

一人ひとりの問題が多様化しているのので、行政、NPO、弁護士や司法書士などの専門家が連携してネットワークを組まなければホームレスの問題を解決することはできません。現在路上生活をしている人の中には、住所さえあれば仕事ができるという人も多くいます。路上生活が短ければ短いほど自立が早いので、その人たちへの対応を迅速にしてもらいたいと行政に要望しているそうです。

ワンファミリー仙台が行った無料電話相談には、「会社勤めしているが給料が安くて生活できない、家賃が払えず来月アパートを出て行かなければならない、どうしたらいいですか。」などの深刻な相談がたくさん寄せられました。また、住居支援施設の入居者の多くは、ホームレスになる前にどこに相談すればよいのかわかりませんでした。「ある程度の知識があればホームレスになってしまうことはない。知識がないからどこに相談したらよいか分からず、どこにも行き場がなくなり、行き着く先が路上に

なってしまう。相談窓口等を開設して、情報をしっかり届けホームレスにならないための対策を十分とるべきだ。」と立岡さんは言います。

●数は力となる

「どんな課題でも多くの人に関心をもってもらい、さまざまな人たちがネットワークを組めば政治まで動かせるほど大きな力になる。福祉は福祉、環境は環境とすべてが単品になってしまいがちだが、さまざまな分野がタイアップすることが今後一番必要なことだと思う。」と立岡さん。

サポセンには多方面から各分野の情報が集まってくるので情報収集をするのに大変便利で、ここで出会った人たちは今のワンファミリー仙台の活動の大きな力になっているとのこと。

「サポセンには情報が集まるだけでなく、いろいろな活動をしている人がたくさん来館する。中でもこの人とこの人がつながったら面白く、お互いの活動がよりよくなるのではないかと、連携することで新たなビジネス形態が生まれるのではないかと多いと思う。サポセンのスタッフは、そういう人たちを積極的にマッチングして行って欲しい。」と、これからのサポセンに期待することも示してくださいました。

今後、ホームレスの自立支援は多様化していくことが予想されますが、これまで培ってきたネットワークがこれからの活動へ繋がっていくのだと強く感じました。



取材を終えて

お話を聞いているあいだじゅう、私は「へえ〜」「ほ〜」とばかり言っていました。それぞれの活動に込められた思いをうかがい、立岡さんの熱意やパワーに圧倒されたのだと思います。

(担当：本間 藍)

アラカルト

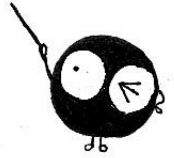
◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

伝わる広報

～イベント告知編～

これから秋にかけて、イベントの開催を予定している団体も多いのではないのでしょうか？

そこで今回は、イベント開催時の広報活動について、お役立ち情報を紹介します。



【準備編】広報を始める前に

■誰に、何を伝えるか！伝えるコトを明確に！

「そのイベントは、何を伝えるためのイベントですか？」

誰かに何かを伝えるには、伝える側が伝えたいコトを明確にしておかなければ意図通りには伝わりません。

そのためには、右の5点を意識しておさえおくのが良いといわれています。イベント告知の場合は、①課題を内容と置き換えても良いでしょう。

- ①課題
- ②目的
- ③ターゲット
- ④コンセプト
- ⑤メディア

■黄金の三角形+1

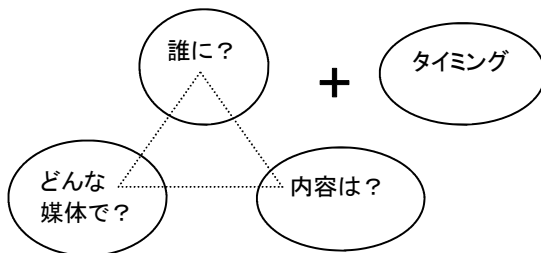
広報時に、おさえたいポイントです。

“誰に（対象者）”

どんな媒体（メディア）を使って

どんな内容を

どのような時期（タイミング）で伝えるか”



ほかでもない<あなた>に来て欲しい！

伝えたいコトが明確になったら、次は誰に伝えたいのか、そして誰にイベントに来て欲しいかです。伝えたいと思う相手を具体的にイメージしましょう。

想いを伝えるためのメディア＝媒体選び

伝えるべき相手が決まったら、次はどのような方法を取ればその相手に伝わるか考えてみます。世代や職業、ライフスタイルなどによって有効なメディアは異なります。

右表はイベント広報に役立つようなメディアの一部とその特性です。

★今どきの広報ツール

ブログを利用してみよう！

ブログとはWeblog（ウェブログ）の略で、Webサイト上で日々更新される記録（記事）というような意味を持っています。従来のホームページより手軽に作れるので、個人や団体で利用する人も増えています。

日本財団の公益コミュニティサイト「CANPAN」では、社会貢献活動（公益法人、NPO、NGO、ボランティア）・CSR（企業の社会的責任）活動も読める無料ブログサービス「CANPANブログ」を提供しています。

CANPANブログ URL <https://blog.canpan.info/>

メディア	特性
チラシ	特定の場所で、手にとってもらうことができ、知ってもらうきっかけとして機能する。
ポスター	人目をひくことで、団体や活動を知ってもらうきっかけになる。
WEBサイト	場所や時間の制限がなく、コンピュータを使える人には、有効かつ効率的に伝達できるメディア。
メール	即時性が高く、コストも低い。転送が容易なため情報拡散が早い。メールマガジン、メーリングリストなどのシステムを活用することで対話型のメディアになることも。
FAX	郵便よりも、他の発信物にまぎれず、対象に届く可能性が高い。
新聞・テレビなどの報道	タイムリーな問題、関心度の高い話題などであれば、取材してもらうことができる。マスメディアの力は大きい。
タウン誌など	地域に根ざしたメディアとして意外に反応がよい。特に主婦層、高齢者層は読んでいる場合が多い。

【実践編】

Step1 広報物をつくる

チラシ、ホームページ、ブログ、メール... どのような媒体を使う場合でも、次の情報は基本情報として掲載しましょう。

特に、イベント告知のように、参加者を募る場合には、申し込み方法などの具体的な情報も忘れずに！

- イベントタイトル、趣旨（目的）、内容
- 日時（曜日、時間も忘れずに）
- 場所
（名称、第〇会議室などの詳しい説明、住所、電話、交通機関、できれば地図も）
- 参加費、定員
- サポート体制（託児、手話通訳など）
- 申し込み方法
- 主催者、問い合わせ先、担当者名

☆タイトルやコピーもひと工夫

チラシなどの広報物は手にとってもらわなければ意味がない。デザインはもちろん、タイトルやコピーもひと工夫し、人々に共感してもらおうチラシづくりにトライしてみよう！

サポ本を読もう！コーナーで紹介している『人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方』を参考に。

Step2 配布する

できれば2～3ヶ月前、遅くとも1カ月前には、配布を始めましょう。大きなイベントほど、早めの広報が重要です。

多くの人々が、出入りする公共施設は、効果的な情報の配布先です。

この時、ぜひ活用したいのが「骨プロ」*1のサービス。これは、市民の皆さんの情報の受発信を支援するために、仙台市内の9つの公共施設が協力して行うプロジェクトです。ボランティアグループや市民活動団体のイベントや講座の案内チラシをサポセンを含め9つの施設に週1回、配信するサービスを実施しています。

*1「骨プロ」とは、仙台に情報の背骨を通すプロジェクトの通称です。

☆忘れないでね。最も重要なく手配り>

広報期間に入ったら、自分のカバンにも常にチラシを必携。「ぜひ来てね。」の一言を添えて手渡そう。あなた自身が、最も重要なメディアです。

もうひと押し！ マスコミ大活用

やはりマスコミの力は大きい。イベント告知の場合は、その内容を要約したもの（プレスリリース）をつくって、新聞社、テレビ局などに情報掲載や取材の依頼をしましょう。

「連絡先がわからない？」ご安心ください。サポセンでは、市民活動お役立ち情報として、マスコミの連絡先リストを作成しています。

市民活動お役立ち情報「メディア活用大作戦」はサポセン1階情報サロンにご用意しています。

（担当：大石 俊輔）

<参考図書>

- 伝えるコツ NPOの広報を考える15のヒント
発行：NPO広報力向上委員会
- * 今回参考にした図書は、サポセン1階情報サロンにて、閲覧できます。



『人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方』

著者：牟田静香
発行：講談社
定価：840円（税込）

■サポセン図書
「今月のピックアップコーナー」にあります。

成功でも失敗でもその理由をとことん分析し、最新情報も敏感に取り入れることで得られた広報のコツが、この一冊に凝縮されています。講座やイベントの開催をお考えであれば、チラシをつくる前に読むことをお勧めします。
（担当 太田 貴）

サポ本を読もう！

『人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方』

「年間の申込み数1300名、平均申込み倍率3.3倍」という驚異的な数字を、「男女共同参画社会の実現のための講座」でたたく出した著者による、広報・チラシづくりのポイントがわかるノウハウ本。

コピーライターでもデザイナーでもない、素人の新人スタッフだった著者が、「私が参加したくなるような講座」という視点から広報に取り組み、タイトルやメリットの打ち出し方、チラシのレイアウトなどを工夫して人が集まる講座を作り上げるに至った過程を、たくさんの成功例と失敗例をもとに解説しています。

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。

◆サポセンのサービスがどんなふうに見えるのか、スタッフが日常の窓口風景をとおして紹介します！

サポセン日記

～ 助成金情報コーナー～

資金集めは多くのNPOにとって永遠の課題です。そんなNPOの力強い味方となってくれるのが自治体や民間の助成財団などが行っている助成プログラム。サポセンには助成金に関する多くの情報が集まってきました。今回はサポセンの助成金情報コーナーについてご紹介しましょう。

● 助成金を活用しよう

まちづくりや環境、福祉など幅広い分野で、市民活動団体を対象にした公募の助成プログラムがあります。使途はある程度限られますが、まとまったお金を得ることができるので、実施したい事業がはっきりしている場合にはとても有効です。

● 助成金情報の探し方

サポセン1階の情報サロンには、助成金情報コーナーがあります。現在募集中のものや、間もなく募集開始の助成金の要項は締め切りの表示付きでラックに入っています。すぐにでも助成金に応募したいという方は、まずはラックから情報を探すとよいでしょう。

けれども、希望通りですぐ応募できるような助成金が見つからないこともしばしばです。そのようなときは情報コーナーの棚のファイルに綴じてある過去の助成金情報をご覧ください。多くの助成プログラムは毎年ほぼ同じ時期に公募を行っているので、いつ頃どのような公募があるかの参考になるはずです。また、全国の助成金情報を集めた助成ガイドもご活用ください。

● 助成プログラムに応募するには

継続して行われているプログラムなら、過去にどのような事業が採択されたか確認しておくといよいでしょう。サポセンには、助成事業の報告書が置いてあるプログラムもあるので、こうした報告書にも目を通し、申請する際の参考にしましょう。

スタッフも助成金の相談に乗ります。お気軽にお声掛けください。

■ 防災NPOで活動しているサポ子さん、何やら浮かぬ様子です。

スタッフ：あらサポ子さん、どうしました？

サポ子さん：防災出前講座をするのにプロジェクターが欲しいのだけど、けっこう高くて。

スタッフ：ああ、それなら助成金に応募してみてもどうですか。助成金情報コーナーに行ってみましょう。

サポ子さん：いろいろあるんですね。

スタッフ：9月から募集開始のふくふくファンドは1団体10万円の助成が受けられて、団体の行う事業の他、物品購入に使うこともできますよ。

サポ子さん：そういうことにも助成金って使えるのね。

スタッフ：助成プログラムによって、新規事業や組織内の研修、あるいは物品購入など使える用途は違ってきます。ぜひ情報収集にサポセンの助成金情報コーナーを有効活用してくださいね。

(担当：布田 剛)



▲ 助成金情報コーナーのラック

イベント紹介

9月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
9月4日(木)～ 全6回 18:30～21:00	ボランティア活動に活用出来る フットケア。どなたでも手軽に覚 えられる手技を身につけてみよう。	研修室3	受講料2万 認定申請料1万 教材費7千 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax:022-223-9023 携帯:090-7564-9831 (森)
9月6日(土) 14:00～17:00	子どもの「非行」や問題行動に親と してどう向き合えばいいのか?そ の苦しさを分かち合いませんか?	研修室1	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464 (星野はるか)
9月16日(火) 10:00～11:45	親業セミナー 「きつと分かり合える」 ～思春期の子どもの接し方～	研修室5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/ index.html (石田えみ子)
9月17日(水) 19:00～20:30	あらゆる印刷物のデザインに 文字組みと図版・イラスト・写真 の基礎	研修室2	1,000円 (事前申込必要)	メディアデザイン Tel:090-3049-0613 Fax:022-224-5308 (千葉浩二)
9月19日(金) 19:00～21:00	東京銘曲堂/JAZZ LIVE 川嶋哲郎(Ts) 岡安芳明(G) 上村信(B)のスタンダード演奏	市民活動 シアター	前売/4,000円 当日/4,500円 (事前申込必要)	仙台にJAZZを呼ぶ女性の会 Tel:090-5599-2733 Fax:022-362-0557 (長沢多美子)
9月21日(日) 13:30～16:30	介護しているみんなのつどい:介 護制度の講演と2つの分科会①認 知症にどう向き合うか②口腔ケア	セミナー ホール	500円 (事前申込不要)	みやぎヘルパー・介護労働者連絡会 Tel:022-236-9651 Fax:022-283-0035 (上條栄治)
9月25日(木) 19:00～21:00	琴・三味線・太鼓トリオ 「INSPIRATION!!!」 全国ツアー2008 仙台公演	市民活動 シアター	前売/2,800円 当日/3,000円 ワンドリンク付 (事前申込不要)	Studio J's Sounds Tel:090-2940-8101 Fax:03-3334-7013 (上原潤之助)
9月27日(土) 28日(日) 10:00～17:00	「健康・食育マスター講座」 『食育の答』2級講座	研修室4	受講料52,500円 テキスト・認定料 を含む (事前申込必要)	結ねっと Tel:090-5838-6914 Fax:022-268-4042 (レターケースN0.46) (千葉)
10月1日(水) 10:30～11:50	平成20年度赤い羽根共同募金運 動開始式※お席は先着順になりま す。予めご了承ください。	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	仙台市共同募金委員会 Tel:022-223-2010 Fax:022-262-1948 (高橋、飯村)
10月2日(木) 18:00～20:30	シャンソン教室の発表会。ゲスト は齊藤昭彦さん、ピアノは葛西暉 武さん。見て聴いて楽しめます!	市民活動 シアター	1,000円 当日券あり (事前申込不要)	カワイシャンソン教室(水曜日) Tel&Fax:022-215-6053 (伊藤)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

- セカンドライフの相談を個別にそして段階に応じて受け付けます。
詳細はお問い合わせください。

< 申込み・問合せ >

仙台市シニア活動支援センター (サボセン3階)
TEL 022-217-3983

シニア専門相談 <無料/予約制/1組1時間程度>	シニア総合相談 <無料/先着5人/予約制>
<p>■9月13日(土) 午前10時～午後6時</p> <p>知っておこう! 地域の助け合い・介護サービス資源と活用法</p> <p>[相談員](特活) ゆうあんどあい 代表 渡辺 祥子さん 台原地域包括支援センター 主任介護支援専門員 大友 順子さん</p>	<p>■9月25日(木) 午後1時～8時</p> <p>テーマを定めずセカンドライフの相談に専門相談員が幅広く応じます。</p> <p>[相談員] シニア元気笑学校 校長 渡辺 源治さん</p>
<p>■10月11日(土) 午前10時～午後6時</p> <p>気になるごみの有料化から考えるエコな暮らし! 定年後、まずは家庭の生ゴミと紙類のリサイクルにチャレンジしてみませんか?</p> <p>[相談員](財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) 事務局長 大原 英範さん 仙台生ゴミリサイクルネットワーク 代表幹事 徳田 実さん</p>	

お知らせ ●○○●

サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

『まちなか まるごと 絵本』

誰もが気軽に取り組めるリサイクルペーパーを利用した、カラージュによる絵本づくりを行います。カラージュの材料は、一番町の商店街を探検・調達します。

●2008年2月に実施した「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」に応募いただいたプログラムから8プログラムを選考し、2008年8月から2009年2月までに毎月実施していきます。

事前申込が必要です。参加費：1人につき500円（材料費）

開催日時	イベント内容
9月28日(日) 9:30~12:30	<p>●ワークショップ いらない紙ってどんなもの？いらない紙が大変身。 どこにある？リサイクルペーパー</p> <p>○いらない紙探し隊 一番町の商店街に探検・調達</p> <p>○つくってみようリユース絵本 親子で制作オリジナル“はらぺこあおむし”</p>

申込方法: TEL・FAX・メールで、参加者の氏名・連絡先(住所・電話番号)・子どもは年齢を明記し申込む。応募者多数の場合は抽選。
(申込締切:9月13日 正午)

申込・問合せ: ハート&アート空間“BE I”
TEL:022-262-2969 FAX:022-262-2975

<ハート&アート空間“BE I”>

一人ひとりがそれぞれのみずみずしい感受性を育て、“自分であること”の喜びをしっかりと感じる人になることを目指している。美術と環境教育などを融合させて総合的な教育スタイルを提唱・実践している。

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー (有料) レターケース (無料) 事務用ブース (有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース (無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース (要申込／無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の見学、貸出も行っていきます。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧 (無料)
- 印刷作業室
印刷機(紙持ち込み) / 1製版100円、紙折り機 (無料) /
コピー機 (1枚10円)

- 開館時間 平 日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後 6時

- 休館日のお知らせ (施設点検等のため)

8/27(水) 9/24(水)

■ 問い合わせ先 ■

発行 行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)

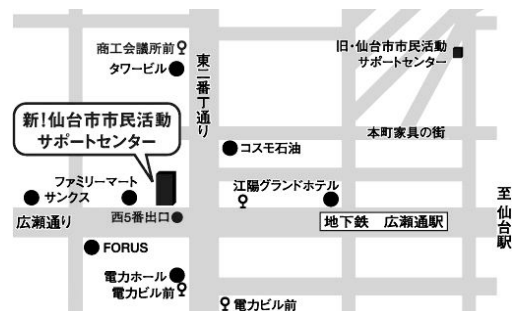
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2008年8月22日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：小松州子 葛西淳子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でお来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日

編集後記

- ◆夏の祭りが終わる間もなく、仙台の街は秋から冬にかけのイベントシーズンに突入です。さて、今年はどうなイベントに参加しますか？(葛西)
- ◆先日、ある方から出身地のお国自慢を尋ねられ、はたと困ってしまいました。知っているようで知らなかった故郷。皆さん、故郷を熱く語れますか？(小松)